

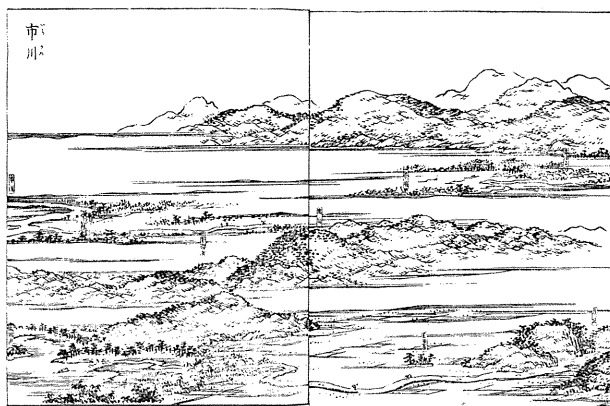


『水上・砥堀地区』をたずねて

『播磨国風土記』と水上・砥堀地区

水上と砥堀はともに歴史の古い土地として知られる。奈良時代に編纂された『播磨国風土記』には、水上地区で飭磨郡枚野里の記事に白国の地名が「新羅訓」の字で記されているし、大野里では、神前郡と飭磨郡の堺に大川の岸の道造った際、砥石を掘り出したので砥堀というとする。又、野里の地名は大野里よりついたものといわれる。

砥堀地区では、神前郡蔭山里に「磨布里(とほり)」の文字があり、砥堀の地名のおこりとされ、応神天皇から砥石の提供を命じられたという説話が記されている。



『播州名所巡覧図会』より市川

市川の流れ

水上・砥堀地区は、姫路城下の北に連なり、市川の流れに沿った地域である。左の図は文化元年(1804)出版の『播磨名所巡覧図会』に描かれた市川の風景で、解説には「水源は但州にして、北播、神東、神西の二郡に到り、所々の支流を合して姫府の北中島より二流となり、西を妹背川という。市川は、姫府の東を流れ、妻鹿阿成の南に至って海に入る」とある。

姫路市へ合併 (旧水上村、旧砥堀村)

江戸時代、姫路藩領に属していたもと飾磨郡の野里村、西中島村、保城村、白国村などは、明治22年(1889)の町村制施行の時、合併してして水上村と称した。姫路の中心部を流れる船場川の上流を占めるので、この名を称したのもの。

砥堀村はその北につづき、もと神東郡に属し姫路藩領であった。明治11年以来砥堀村の名称を用いていたが、明治22年仁豊野と合併して面積は拡大したが砥堀村と称した。

両村とも、昭和8年(1933)には姫路市と合併し、野里、西中島、保城、白国、砥堀、仁豊野は町名となったが、最近の人口増と市街化により、新しい町名がつけられている。

水上村道路元標 (西中島)

道路の起点・終点・経過地を示す標式で、大正9年(1920)各市町村に1つつおかれた。水上村のものは西中島におかれ、現在も道路脇にある。



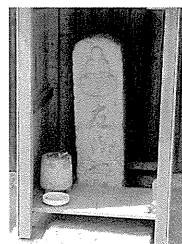
水上村道路元標

無量山法林寺 (西中島) 真宗大谷派

『飾磨郡誌』に、「社寺明細帳」によると享祿5年(1532)創立、開基不祥、「寺院明細帳」では延宝2年(1674)了伝開基の二説が記されている。

弘化4年の道標 (西中島)

法林寺そばの薬師堂(明徹山加立寺)の脇に道標が保存されている。地藏像と弘化4年(1847)の銘がある。



弘化四年道標



勝松神社 (保城) 祭神 金山彦と弁財天

『飾磨郡誌』に、もこの地に赤松政則建立の勝松寺という禅寺があり、その鎮守として弁財天が祀られ、靈験あらたかで多くの信仰を得ていたが、天正頃、別所の兵火で焼失、弁財天のみ災いをまぬがれ、以後勝松神社と称し東、西中島と横手の氏宮としたとある。手洗石には宝暦14年(1764)の年号と横手村の名がある。絵馬は文化3年(1806)の唐人図をはじめ、多く保存され、特に干支小絵馬29面、拝み絵馬11面など極めて多い。鳥居南方に力石と思われる石が数個ある。



勝松神社

大歳神社 (保城) 祭神 大年神

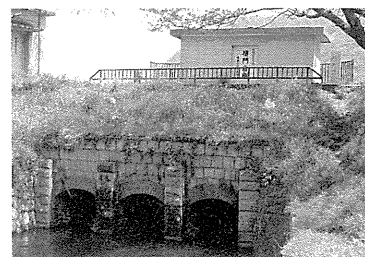
「社寺明細帳」に、当社はもと横手村に鎮座、天正年中に、豪農大塚孫右衛門が自己の山林に遷し、正徳年中に領主榊原政邦より、森林を編入とある『飾磨郡誌』。石鳥居は安政3年(1856)の年号と材木町の石工、居村弥兵衛武次の名が刻まれている。その他、御神燈は文化11年(1814)、宮型燈籠は文久3年(1863)、手洗石には文政2年(1819)等の年号が見られ江戸期の石造品が多く見られる。



大歳神社

大樋 (保城)

市川と船場川の分岐点、本多忠政の時、船場川を改修し舟運の便を開いた。寛延2年(1749)7月の大洪水で大樋が決壊し、船場方面の被害は甚大であった。藩主酒井忠恭は1万石の費用をかけ、ここに大樋門を建設した。その後、たびたび改修され、現在はレンガ造りの立派なものとなっている。



大樋門



馬車道修築碑（砥堀）

飾磨の港より生野の鉾山まで建設された官設道路。明治6年(1873)フランス人シスロイを技長として起工、同9年に竣工。鉄道開通まで産業道路として活用された。この道路の来歴を記したのが、この碑である。
(見学シリーズ 6)を参照)



馬車道修築碑

春川神社（砥堀）祭神 大年大神

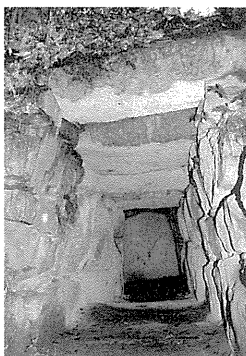
鳥居は元治元年(1864)、狛犬は弘化2年(1845)燈籠は宝暦9年(1759)、慶応2年(1866)など、江戸時代の石造品が多く古くから崇敬された神社であることが分る。絵馬は天保11年(1840)の武者絵の外明治時代もので「領主に米を納める図」や「参議対韓問題を論ず図」などユニークなものがある。



春川神社

権現山古墳（砥堀）姫路市指定史跡

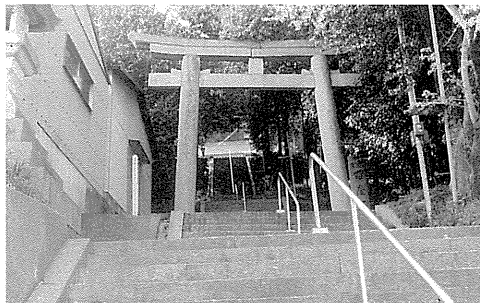
南の方に開口部をもつ横穴式古墳で、羨道は10m、玄室は片袖式で4m幅2m奥行は市内最大規模。墳丘は変型しているが、一辺30m余りの方墳と見られている。出土物は不明。



権現山古墳

大蔵神社（砥堀）祭神 大年大神

安政6年(1859)の石鳥居や元治2年(1865)の宮型燈籠、正徳3年(1713)の春日型燈籠など江戸期の石造品がある。絵馬も天保11年(1840)の富士裾野巻狩図をはじめ江戸時代のものが多い、



大蔵神社

そうめん滝（砥堀）

右の写真の道標から西へ約1km程で、そうめん滝がある。付近一帯は岩肌があらわれ、市内唯一の渓谷美を示す。水量は少ないので細い滝があり、この名がついた。上流は、ファミリーキャンプ場となっている。不動を祀った行場があり、付近には東南寺もある。滝付近からは増位山随願寺や広峯神社へのハイキングコースも設けられている。



そうめん滝入口道標

砥堀井堰樋門（仁豊野）

マリア病院の北方に、砥堀方面の用水取水の樋門がある。昭和32年の記念碑や平成元年の改修記念碑が立っている。



砥堀井堰樋門

和辻哲郎生家（仁豊野）

国道312号線に面してある。明治22年(1889)医師の次男として生まれ、東京帝国大学で古典及び仏教美術を研究し、大正9年(1920)から東洋大、京都大、東京大の教授を勤め、日本を代表する思想家となった。

明正寺（仁豊野）浄土真宗本願寺派

境内に宝永6年(1709)と宝暦13年(1763)の鬼瓦が保存されている。



泡子八幡神社

泡子八幡神社（仁豊野）祭神 応神天皇

播但線仁豊野駅西方の山裾にある。仁豊野地区の鎮守で、境内には、天神社、琴平社、愛宕社など五末社がある。ほかに庚申堂と地藏堂があり、地藏堂には瑞正山慈眼禅師の額があり、神仏混淆の名残を偲ばせる。また庚申堂には現在もその信仰が続き、数多くの猿のぬいぐるみがかげられているのが珍らしい。境内入口にある宮型燈籠は文政13年(1830)の年号と道しるべが刻まれている。また、他の燈籠には、享保14年(1729)の年号が、手洗石には明和2年(1765)の年号がある。



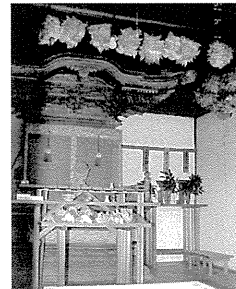
庚申堂

六地藏（仁豊野）

八幡神社の南方、山裾の公園下の墓地に六地藏があり文政5年(1823)の年号が見られる。



六地藏



庚申堂内部